

2014年1月5日

学長 尾池和夫

2014年初頭のご挨拶

皆さま、明けましておめでとうございます。今年は甲午（きのえうま）の年です。十干の甲は陽の木で十干の最初、十二支の午は陽の火で、子午線という言葉からもわかるように、十二支の折り返し点です。西暦の1月1日は人工的なもので、天地自然の法則には無関係ですが、農曆あるいは夏暦の中国暦は、天体の運行を元にする自然の暦です。

還暦60年の周期に意味があるという考えもあります。60年前の甲午の年、1954年（昭和29年）、日本の映画では、黒沢明監督の『七人の侍』、本多猪四郎（ほんだ いしろう）の監督、円谷英二の特殊技術による『ゴジラ』（シリーズ第1作）、木下恵介監督の『二十四の瞳』が生まれました。ゴジラの発想は、この年、第五福竜丸が被爆したことを基にしており、ビキニ環礁海底に眠る恐竜が水爆実験の影響で目を覚まして日本を襲うという企画となりました。この年には、自衛隊が発足して日本が再軍備した年でもあり、原子力研究開発予算が国会に提出された年でもあり、また、ソビエト連邦がはじめて水素爆弾の実験を実施し、世界で最初の原子力発電所がモスクワ近くで創業した年でもありました。またこの年、アメリカ合衆国では最初の原子力潜水艦が開発されました。

さらに60年前の1894年には日清戦争の宣戦布告がありました。

昨年、「藝術立国之碑」が京都造形芸術大学と東北芸術工科大学に建立されました。その碑に刻まれている言葉の意味を深く考えることが、私たちにとって重要です。広辞苑で、「立国」を引くと、「新たに国家をつくること。建国。」という説明と「国を繁栄させること。「工業一」」という説明があります。この言葉を英語に訳すとどうなるかを

考えてください。「立国」の適切な訳語が和英辞典にないのです。この年末年始、かなり考えましたが、まだ、いい訳を思いつきません。とりあえず、日本人が言うときには、「Japan's future created by art.」としておきたいと、今は思っています。これを示して、英語のできる方たちへの私の挑戦としておきますので、もっといい訳を教えてください。教職員の皆さんへの、とくに国際交流と英語教育関連の方々への年頭の宿題としておきます。

碑に刻まれた理念の意味を訳すためには、やはり日本語で、徳山詳直理事長の言う「藝術立国」の意味をしっかりと認識することが必要です。それには、吉田松陰の思想を学ぶことが大切であるというわけで、今年、私は初詣に東京世田谷区にある松陰神社へ行きました。

国士舘大学一帯が広域避難場所になっている世田谷区役所の近くに、スタジオの群生がある若林公園があり、その東に松陰神社があります。この神社も、吉良氏が築いた世田谷城の跡や、大谿山豪徳寺とともに「せたがや百景」の一つとなっています。烏山川緑道に沿う場所です。「五瓜に隅立て卍」の松陰の家紋の旗と提灯があり、黒塗りの鳥居をくぐると本殿への石畳があります。左手に一月の松陰の言葉があり、「一月にして能くせずんば、則ち両月にして之れを為さん。両月にして能くせずんば、則ち百日にして之れを為さん。」（安政四年五月、諸生に示す）とありました。本殿の東に、明治25年ごろまで続いた松下（しょうか）村塾が、萩の松陰神社の境内にあるものを模して建てられています。主な塾生たちとして、高杉晋作、伊藤博文、久坂玄瑞、前原一誠、品川弥二郎、、山田顕義、山縣有朋が紹介されています。

部屋の横には、松下村塾の床の間に掲げてあった「松下村塾聯」の説明がありましたが、その説明の中に、「教育の目的」ということがあり、それには「君臣の義」（君主とその臣下の間柄にある義の徳）、「華夷の弁」（日本と外国の違いを明確にせよ）、「奇傑非常の人」（人並み外れた優秀な人材）を育むこととありました。これを京都造形芸術大学の教育に置き換えると、まさに「藝術立国」の精神に繋がるものではないかと思いました。

本殿に向かって左の方に墓所があり、その入り口には「大政一新之歳、木戸大江孝允」と刻まれた石の鳥居があります。墓所の奥に松陰の神道墓があり、銅板の家紋がくつき

りと浮き出た賽銭箱がありました。

安政6年10月27日朝、松陰の辞世の句、

親思う心にまさる親心けふのおとずれ何ときくらん

身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂

そして絶命の詩、

我今為国死 死不背君親 悠々天地事 鑑照在明神

(我いま国の為に死す 死して君親に背かず 悠々天地の事 鑑照明神に在り)

などを思い浮かべる墓所でした。

吉田松陰の墓は、文久3年、松陰門下生であった高杉晋作、伊藤博文らによって、この世田谷若林の地に改葬されました。明治15年11月21日、松陰門下の人々が墓畔に社を築いて松陰の霊を祀りました。この松陰神社は、近年は学問の神として崇敬を集めているそうです。

長州征伐の際、幕府によって破壊されたこの墓所は、明治元年、木戸孝允等が修復したとき、葵の紋のついた石燈籠と水盤が、徳川氏から謝罪の意を込めて奉納されたそうです。

以上、少し変わった年始の挨拶になりましたが、「藝術立国之碑」の内容の3行が、A I A国際会議参加諸国の言語に訳されたのを機会に、この瓜生山学園の教職員一人ひとりが、「藝術立国」の精神について、まず理解を深め、世界にその精神を正しく伝えるため努力すると誓い合うことを提案して、私の新年の挨拶といたします。

ありがとうございました。

尾池和夫